

オグロシギ *Limosa limosa* (Linnaeus)

【選定理由】

本来飛来数の多い種ではなく、年によって飛来数に変動の大きい種ではあるが、愛知県鳥類生息調査では、尾張地域の「鍋田」で1970年10月に最大値の147羽、その後も1995年までの秋には「庄内川河口」で57羽など、比較的安定して50羽程度の記録がある。東三河では1981年9月に「汐川河口」で最大値58羽の記録があり、1993年までは度々20羽以上の記録があったが、その後激減している。近年もほぼ毎年のように飛来しているのは「庄内川河口」だけであるが、秋の県内全体では「庄内川河口」に他の地域の数を加えても、多い年で合計20羽程度以下である。

【形態】

全長36～44cm、翼開長70～82cm。夏羽は、頭部から胸にかけて橙褐色、上面は赤褐色で黒色の軸斑と白斑があり、胸側と脇には黒色の横斑がある。冬羽は、頭部から上面にかけて灰褐色で、下面は白色。幼羽は、上面の羽縁がバフ色で頭部に黄褐色味を帯びる。嘴はまっすぐで長く、脚は黒色で長い。飛翔時は、風切の白い横帯と腰の白色、尾の先端は黒色。雌の方が雄よりやや大きい。



愛知県西尾市, 2013年5月14日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

春秋の渡りで、主に伊勢・三河湾沿岸の干潟、淡水や汽水の湿地、水田などに飛来する。

【国内の分布】

春秋の渡りで、北海道から沖縄まで全国に飛来する。

【世界の分布】

ユーラシア大陸中部、北部で繁殖し、ヨーロッパ南部、アフリカ、インド、東南アジア、オーストラリアで越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

主に春は4月下旬から5月に成鳥が、秋は8月から10月に幼鳥を主とした群れが飛来する。干潟や埋立地の水溜り、干拓地や河川流域の水田や水路、池沼などに飛来する。淡水や汽水の水辺を好むので、干潟に入る場合も比較的上流域の汽水域で採餌することが多い。ゴカイ、カニ、二枚貝、昆虫などを捕食するが、泥に差し込んだ嘴を前方に振り上げて餌を飲み込む独特な採餌をする。数羽から20羽程度の群で生息することが多く、秋に比べ春の飛来は頻度が低く飛来数も安定しない。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在の飛来地は木曾川下流流域、庄内川河口周辺、矢作川流域および河口周辺、一色干潟周辺、豊川河口周辺、汐川干潟周辺などがあげられるが、現在ほぼ毎年秋の飛来があるのは庄内川河口と西尾市沿岸部周辺のみ、春は飛来頻度が低く飛来場所も安定していない。

減少の要因は、県内の沿岸部や平野部から淡水や汽水の湿地環境が減少し、残された湿地環境からも餌生物が減少していることがあげられる。

【保全上の留意点】

沿岸部に残る湿地を保全することは当然であり、環境の回復に努める必要がある。愛知県では、干拓地や埋立地の遊休地に、淡水や汽水の湿地環境を復元する努力が必要な時代になっている。

【特記事項】

春は成鳥の冬羽から夏羽の個体が飛来し、秋は幼鳥の群れに少数の成鳥冬羽が混じることがある。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.134. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)